

サレジオ工業高等専門学校  
総合メディアセンター報  
Reports of the Media Center

創刊号

特集「特色あるメディアセンターの活動」

Oct. 2010  
Media Center, Salesian Polytechnic



## 巻頭言 —センター報発刊の目的—

本年度4月から総合メディアセンター長を拝命し、大変光栄に思うと同時に責任の重さを痛感しています。本センターがさらに発展すべく、多面的な取り組みを検討し展開していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

さて、サレジオ高専総合メディアセンターは、2005年の学校移転にともない、当時のセンター長であった木戸事務長の発案で、将来の利用形態にも耐えうるように、旧育英高専時代の図書館と情報センター（SITEC）を統合して創設されました。創設以来、「利用者にひらめき（気づき）を与える」をコンセプトに「より使い勝手が良い」、「より居心地の良い」場の提供を目指して、学生はもとより、教職員、OB、保護者、他機関など、すべての利用者に対して有益となるサービスを提供して参りました。しかしながら、これらの活動内容やその有益性を詳しく周りに知らせる広報手段の整備までには至っていないのが現状です。世間において、広報の重要性は既に知られているとおりであり、私自身も「知らしめない事はやらずと同じ」と考えています。

既に本校では広報を目的として外部に諸活動を伝えるものとして「研究紀要」と「高専ニュース」が刊行されていますが、「研究紀要」は学術的に裏付けられた論文を中心とするものであり、「高専ニュース」は速報性を伴う記事を中心とするものです。これに対して我々が伝えたい内容は、単に教育・研究分野のみならず、センターのコンセプトである「ひらめき（気づき）を与える」に沿うものであれば広く取り扱い、また「高専ニュース」より深く掘り下げた情報提供を考えています。このように、我々が考える広報の内容は「研究紀要」や「高専ニュース」のものとは性質が異なり、これらの刊行物の記事には適していません。そこで、メディアセンター創設5周年を機に、新たに総合メディアセンターのセンター報を発刊し、利用者にひらめきを与える情報を中心に、センターの諸活動やセンタースタッフの思いを積極的に発信する事にいたしました。これによりセンターの有益性が広く認知され、さらなる利用者の増加を見込んでいます。

広報の手段としては、紙媒体の刊行物はあえて発行せず、WEBを通してより広範囲に公開することを予定しています。このWEB環境には閲覧者からの情報を収集する仕組みを盛り込み、収集した利用者のご要望や他機関からのご意見は、センター活動の評価や検討事項として有効に活用することを考えています。これによって、PDCAサイクルに則ったセンター活動のスパイラルアップを目指していきます。今後とも総合メディアセンターの活動にご理解とご協力をお願いいたします。

2010年 5月吉日  
総合メディアセンター長  
米山秋文

# もくじ

## 総合メディアセンター報 創刊号

	ページ
巻頭言 ーセンター報発刊の目的ー	総合メディアセンター長 米山秋文 1
寄稿 総合メディアセンターにいたる道	事務長(元情報教育センター長) 木戸能史 3
<b>特集 「特色あるメディアセンターの活動」</b>	
サレジオ高専総合メディアセンターの特徴	情報工学科 小出由起夫 一般教育 米山秋文 5
図書情報委員会五年の歩み	一般教育 山館 順 7
文献検索講習会の改善と効果の検証	教育支援課 和田初枝 10
サレジオ高専の“共育”コミュニケーション	機械電子工学科 森 幸男 2
コラム 情報モラル観	一般教育 花山康雄 18
<b>資料編</b>	
1.総合メディアセンターについて	20
2.各種データ	
[1] 図書館・情報館関連	
(1) 入館者数	21
(2) 図書館蔵書数	22
(3) 図書貸出冊数	23
(a) 分野別貸出冊数	23
(b) 月別貸出冊数	24
(4) PC 教室利用状況	25
[2] WEB 関連	
(1) 年間来訪者数	26
(2) 年間来訪者数(1日単位での集計)	27
(3) サイト内年間ページ別セッションランキング	28
(4) サイト内年間ページ別セッションランキング	29
(5) メインサイト更新件数	30
(6) 検索キーワードからのセッション数ランキング	31
編集後記	32

## 寄稿

### 総合メディアセンターにいたる道

—総合メディアセンター報発刊を祝って—

事務長（元情報教育センター長）木戸能史

念願のセンター報が発刊されることを祝って一文を寄せたい。現在センターには大きく分けて図書館と情報館（浸透していない呼称だが）の二つが属している。多くの高専、大学では図書館と情報センターのように独立しているのが普通なのだが・・・、これには私の思いが深く関係している。

昭和 48(1973)年に本校の前身である育英高専に始めてコンピュータが導入設置され、情報教育が本格的にスタートした。その後電子計算機室、データセンターと名称は変わったがコンピュータの進歩と情報教育の進化に応じて、昭和 63(1988)年に情報工学科の新設もあり、情報教育センターとして大型汎用機 M760 を導入、大学並みの設備が整いさらに平成 7(1995)年には念願のインターネットへの接続、学内 LAN も整備された。

一方、昭和 60(1985)年に基礎教育館が新設され同時に図書館も併設された。建物としては立派であったが専門学科の建屋から遠く、温室のような構造から利用しやすい環境ではなかった。平成 13(2001)年前後に学校移転の話が出て新校舎建設計画が具体化していく中で、新しい図書館のイメージを決めることになったとき、これからのネット社会では紙メディアとしての図書館自身も電子化に向かい、デジタルメディアとしての情報館とともにシームレスに同じ場所、組織でなければならないと考えた。移転計画の陣取り合戦で夢工房と激しく争い、1階ホール脇と言う絶好の位置を確保でき、平成 17 (2005) 年サレジオ高専の発足とともに現在の総合メディアセンターが実現した。

このような経緯でできたセンターが学生や教職員が来ない寂れた場所になったらどうしようという心配は杞憂に過ぎなかった、センターにかかわる教職員の努力もあり現在のとおりの盛況である。また図書館から情報館演習室に入るというしくみから即時的情報はインターネット、系統的情報は従来の図書、文献というように自然にメディアの使い分けができるようになっている。遅くなると道路から勉強している学生の姿が見える開放的構造もやがて地域に開放するという究極の目標を示唆している。学生たちが自然に図書館に立ち寄れる雰囲気づくりには学生図書委員会の努力もあり、広報誌 STELLA や川柳、ネット小説大会など図書館を中心に情報文化の交流点になり、ここは全国の国立高専の図書館とくらべて決して負けない部分と自負している。

情報の基地、基盤としての重要かつ充実した総合メディアセンター、すなわちネットから検索できる電子図書館、情報環境の高規格化、メディア活用教育環境の充実などますます期待は大きい。私がセンター長時代果たせなかったセンター報を発刊することもようやく適った。是非 3 号まで(^^)、いや学校がある限り続いてほしい。ここまでの関係者の皆さんに感謝しつつ、平成 22(2010)年には情報環境の再更新も計画され、蔵書数も増え、やがて市民にも開放できるセンターになって欲しい。

平成 22 年 6 月センター報発刊にあたって

## 記事

### 特集 「特色あるメディアセンターの活動」

サレジオ高専総合メディアセンターの特徴

情報工学科 小出由起夫 一般教育 米山秋文

図書情報委員会五年の歩み

一般教育 山舘 順

文献検索講習会の改善と効果の検証

教育支援課 和田初枝

サレジオ高専の“共育”コミュニケーション

機械電子工学科 森 幸男

## サレジオ高専総合メディアセンターの特徴

小出 由起夫<sup>†</sup> 米山 秋文<sup>‡</sup>

### The Characteristics of the Media Center in Salesian Polytechnic

Yukio KOIDE<sup>†</sup> and Akifumi YONEYAMA<sup>‡</sup>

概要 サレジオ高専総合メディアセンターは、利用者の創造力の向上をポリシーとして様々なサービスを提供している。図書館と情報館による構成は、アナログメディアとデジタルメディアの両面からの支援を可能にしている。本稿では、ポリシー達成に向けた取り組みの内容を紹介し、総合メディアセンターの特徴について説明する。

#### 1. はじめに

サレジオ高専総合メディアセンターは、2005（H17）年度の学校移転の際、将来の利用形態にも耐えうるように、旧育英高専時代の図書館と情報教育センターを統合して創設された部署である[1]。

創設以来、「利用者の創造力の向上」をポリシーとして、すべての利用者に様々なサービスを提供してきた。本稿では、総合メディアセンター（以後、センターと称する）の特徴について説明する。

#### 2. センターの目的

センターの目的は「利用者の創造力を向上させる」ことである。ここで言う創造力とは、「今までに無く、常識に囚われない、意外なアイデアや新しいものを新たな定義として発見する能力」と定義している。この創造力の基となるものは、「ひらめき」や「気づき」である。したがって我々は、創造力を向上するためには利用者に「ひらめき」や「気づき」を与えるサービスを提供することが必要であると考えている。

「創造力を向上させる」すなわち学生が創造力を身につけるために必要な能力としては以下の3点が重要である。

- ① 知識や技術を習得する、インプット能力
- ② 混沌とした知識や技術から何かを「ひらめく」、インスピレーション能力

- ③ 「ひらめき」を形にして表現する、アウトプット能力

創造力の基となる「ひらめき」は何もないところから偶然に湧いてくるものではない。「ひらめき」のためには、それに関わる知識や技術、またそれらを用いた経験が重要となる。これらは創造のためのいわば部品であり、この部品の多さが「ひらめき」の精度を向上させると考えている。言うまでもなく、「ひらめき」とはまったく新しい何かに気づくことである。よって、常識や既存性に囚われず、部品を論理的に融合して新たな可能性を見出す力が必要となる。また、運よくすごい「ひらめき」を得たとしても、そのままでは個人の「思い」の範囲であり、「ひらめき」を具体的な形にする技術や能力が必要である。我々は、これらができるだけスムーズに行えるサービスの提供を目指している。

また、我々は「ひらめき」のためには啓蒙活動や外部からの刺激も有効と考えている。そのため、学生委員会活動として学外の図書館・センターとの交流や外部講師による講演会の企画・運営を行ってきた。（本誌「図書情報委員会五年の歩み」参照）現在はセンタースタッフを中心に行っているが、近い将来、完全に学生委員主導のものになればと考えている。

#### 3. 目的を達成するサービス

つぎに、目的を達成するための能力習得を支援するサービスについて説明する。

##### (a) 基本的な情報を効率よく提供する

ひらめきのベースとなる基礎的な知識を提供する。情報の形態はインターネット等から得られる電子的な情報だけでなく、書籍のようなア

<sup>†</sup>情報工学科

Department of Computer Science and Technology

<sup>‡</sup>一般教育

General Education

ナログ的な情報まで広くカバーするべきである。

### (b) プラスアルファ的幅広い情報を提供する

知識や技術の習得には、主となる基本情報以外に何らかで関連付けられたプラスアルファの情報も有益である。このようなプラスアルファの情報を提供することで、利用者の視野が広がり、創造のチャンスを広げることになる。

### (c) アドバイスを提供する

先輩や教員のような「人」による的確なアドバイスは、時にインターネットや書籍の情報からは得られにくい情報を得ることがある。的確なアドバイスは利用者の知識欲を刺激するので、このようなアドバイスが得られる環境を提供することが望ましい。

### (d) 仲間で議論ができる環境を提供する

的確なアドバイスは、仲間どうしでも生じることがある。経験上、仲間どうしが気軽に、損得勘定なしに議論できる環境が、そのようなアドバイスが発生しやすい。ゆえに、そのような場所を提供することが望ましい。

①の「知識や技術を習得する、インプット能力」を支援するサービスについては、(a)～(d)すべてのサービスが有効である。

つぎに、②の「混沌とした知識や技術から何かを「ひらめく」、インスピレーション能力」に関しては、前述の(b)、(c)のサービスが有効である。(b)については創造のチャンスを広げることになるので、これがすなわち「ひらめき」や「発想」につながることは自明である。(c)についても、的確なアドバイスが創造のトリガーとして作用することが期待できる。

そして、③の「ひらめきを形にして表現する、アウトプット能力」については、表現の場を提供することが重要である。そのためにイベント等を企画し、仲間が集まる機会を積極的に増やすことが効果的である。したがって、(d)の環境の提供が目的達成のための有効なサービスとなる。

以上のサービスを実現するために行ってきた事項を表1に示す。

また、これらのサービスを提供し、安定した支援を行うためには、センターそのものが安定した運営を行うことが必要となる。このためにセンターでは長中期計画に基づいた運営を行っている。

表 1. サービス実現のための作業

サービス	提供する事項
(a) 基本的な情報を効率よく提供する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高速回線の実現</li> <li>・ インtranetの整備</li> <li>・ セキュリティの向上</li> <li>・ トラブルの防止</li> </ul>
(b) プラスアルファ的幅広い情報を提供する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メールマガジンの発行</li> <li>・ ホームページによる情報提供</li> <li>・ 図書館データベースの実現</li> <li>・ 電子ジャーナルの閲覧</li> </ul>
(c) アドバイスを提供する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メールシステムの整備</li> <li>・ 図書館内ミーティングスペースの提供</li> </ul>
(d) 仲間で議論ができる環境を提供する	

## 4. センターのあるべき姿

これらセンターの目的を実現するためのサービスをまとめると、次の(1)～(4)に集約される。

- (1) 高速かつ確実に情報を伝達する
- (2) プラスアルファの情報を提供する
- (3) 気づきの場を提供する
- (4) センターを健全に運用する

したがって、これら4つのサービスを利用者に確実に提供することが、我々総合メディアセンターのあるべき姿である。とくに、プラスアルファの情報提供や気づきの場を提供することが、本校独自の教育方針である「アシステンツァ」[2]の更なる向上につながる。(本誌「サレジオ高専の“共育”コミュニケーション」参照)

## 5. まとめ

本センターは、利用者の創造力を向上することを目的に活動している。このようなポリシーを実現するために日々の業務を定義し実行している。単なる情報センターとしてだけでなく、あくまでも利用者の利益を追求するために「アシステンツァ」を意識したサービスを提供していることがセンターの特徴である。

## 文 献

- [1] サレジオ高専編，2005年度学校便覧(info)，サレジオ高専，2005。
- [2] 岡 道信，共にいる教育－アシステンツァ，ドンボスコ社，1996。



## 図書情報委員会五年の歩み

山館 順†

Memories of the Committee for Library and Information

JunYAMADATE†

概要 本稿では2004年度に設置された本学内の図書情報委員会について2010年4月現在までの動きを振り返る。国公立を含めて高専各校図書館のなかでは学生が主体となって運営される図書と情報(PC)を対象としたこの種の委員会は比較的数量が少なく、私立高専である本校の特色ある教育活動の一環ともなっている。

設置以来五年間をふりかえるとともにさまざまな取り組みと現状、そして今後の課題について考える。

### 1. はじめに 設置までの経緯

60年以上にわたり住み慣れた旧育英高専の杉並キャンパスから現在地である町田市小山ヶ丘への移転前年である2004年春、図書情報委員会(以下図情委と略記)は設置された。

目的は元来本を読まず、本嫌いといわれることの多い高専学生を対象に従来の図書館の利用率を高め、その啓蒙を図ることであり、学内の支援施設である総合メディアセンター所管の一業務として活動開始した。

目前の仕事には旧図書館蔵書の整理が先ずあった。

旧キャンパス図書館の蔵書が老朽化し、整理を余儀なくされたため、史料価値を持つ一部を除き思い切って整理したのだが、作業完了後にボランティアとして蔵書整理の仕事に携わってくれた学生諸君を中心に、若いエネルギーで何か継続的な活動ができないだろうか、との木戸現事務長の発案で委員会が発足した。

学生委員は各クラス2名ずつ選任されるが、本とメディアセンターの啓蒙という趣旨に沿った責任を持って仕事を引き受けてくれる者であれば、委員でなくても「飛び入り」参加を認める。また本と図書館に親しんでもらうという目的から、規律と責任を守った上である程度の自由な文章表現発表を認めることとした。

### 2. 様々なとりくみと現状

次に図情委の仕事について紹介する。

---

†一般教育

General Education

#### ①図書館情報館啓蒙誌

まず図書館情報館啓蒙誌としてSTELLA(ステラ)を年数回不定期に発行、校長初め教職員インタビュー、またそのおすすめ本紹介は学内での反響を呼んだ。

さらにおすすめ本の一部を書架に置くことで授業外での学生と教職員間交流における一助となったと考える。後出のサレジオ文学大賞の選評も掲載し、学生の表現力を養うことに配慮している。2009年度以降は文学大賞に併せて年一回に刊行ペースが落ちているのも現状である。

#### ②育英祭古本市

毎秋の文化祭において古本市を開催、雑誌以外の単行本マンガから専門書に至るまで安値で販売しており、その収益は文学大賞の賞品用図書券に充てられる。

#### ③サレジオ文学大賞

2007年2月発表の川柳大会から発展し現在にいたる。私鉄車内吊広告のマナー川柳にヒントを得て自由部門、マナー部門でスタートした。第一回目は町田移転後間もない時期だったため通学マナー啓蒙の一環としての意味もあり、この時には学生総数約800人中7割近い500首以上が集まり、優秀作選考に手間取った。

その後応募作は減少したがショートショートノベル大会(08)と名を変え、さらに長編、短編、川柳の3部門を増やすことで現在の「サレジオ文学大賞」となった。

応募作品はノンジャンルのため恋愛、学園ものから時代小説、三国志などの古代中国や、第二次大戦中のドイツ軍部隊を題材とした歴史、

架空戦記ものまで幅広い。

2008年度以降には携帯小説の影響もあってか人間同士のふれあいや絆をもとめるような作風が目立つようになってきている。

#### ④ブックハンティング

図書館蔵書購入の際に図書委員学生と希望者が購入予算の枠内であれば自由に選書してかまわないとし、毎年町田市内最大の書店に出向き学生とともに選書をおこなってきたが、2009年度より多少制度を改変した。

学生が直接書店に赴いて購入書籍を選ぶ方法の場合どうしても書店に在庫中の本が中心となる傾向が生まれ、ともすれば予算消化のための選書ということにもなりかねない。

そのため司書の提案により一時的なイベントとしてではなく日常的に購入希望図書を受け付ける形態に改めた。

希望図書に関しては文系理工系で教員、司書が学校図書館に相応しい本か否かをチェックしているが、幸い不適切とおもわれるものは殆どない現状であり、学生側に図書館蔵書を大切にしようという気持ちが広がっていることが見て取れる。

購入後は購入希望者がその本の宣伝文を短い文章で記すことを義務付け、文章力養成の一助となることも目指している。

購入希望図書の中で人気が高いのはライトノベル、ミステリー、また携帯小説の活字化本などであるが、空想科学読本シリーズもポピュラーである。

#### ⑤学生取材班活動

メディア委員の森先生が外部広報として公開しているWEBページの記事を09年度より図書情報委員学生が取材執筆、掲載している。

現在まで連載中の「キャンパス草花日記」やソーラーカーやエコノムーブなどの「プロジェクト」、また「寮生活より」、好成績をおさめた運動部への一連の取材、さらに他の委員会や歳時記的な「クリスマスイルミネーション」などインタビューの文章と写真とで学校生活を描き出す。取材記者である委員たちには普段みられない教員や職員、さら上級生たちの素顔を垣間見ることができたとの感想であった。

### 3. 今後の課題

他の委員会と比べて学生の行動についての自由度が高く、また愉しんで仕事に参加できる委員会のせい、学生側から余り大きな不満は現状では出てこないが、やはり取材活動などは好きで参加している特定学生に仕事が集中し勝ちになる傾向がある。

一方で委員学生以外からの飛び入りもおりその中から専門学科以外の仕事について、例えば文学大賞のポスター造りで素人目にも良い作品を生み出すなど、学生が自分の才能を発揮できる場になっている。

図書館利用状況でいえば移転当初、杉並時代と比べて貸し出し冊数が大幅増加した。

2006年4月～2008年3月の利用実績と月別入館者数を見るといずれも増加していることが分かる。特に図表下段の月別利用者合計では2007年度は前年比約2倍となった。次頁[図表]参照

ただしその後やや伸び悩みの状態にあることも付言せねばならない。

これまで司書の方々のお力によって学生にとっての居場所となっているのだが、図書館を単なるお楽しみの場ではなく、学習面に特化してもう一段高めるためには更なる新企画が必要と考えている。

そうした企画として現在実施中のものに他校との交流事業があり、同じミッション系の中高校への図書館見学を行っている。また啓蒙活動の一環として外部講師を招いての公開講演会がある。

いずれにせよ総合メディアセンターは学生教職員の支援施設であると同時に学生が学校とつながる媒介（メディア）であり、この施設にどのように血を通わせていくかが図情委の役割となってくる。

人と本、また人と人との接点として図書情報委員会の役割についてあらためて責任を感じるとともに、今後も学内外の潤滑剤となるべく活動の活性化を図る所存であることを述べて本稿の結びとしたい。

[図表]

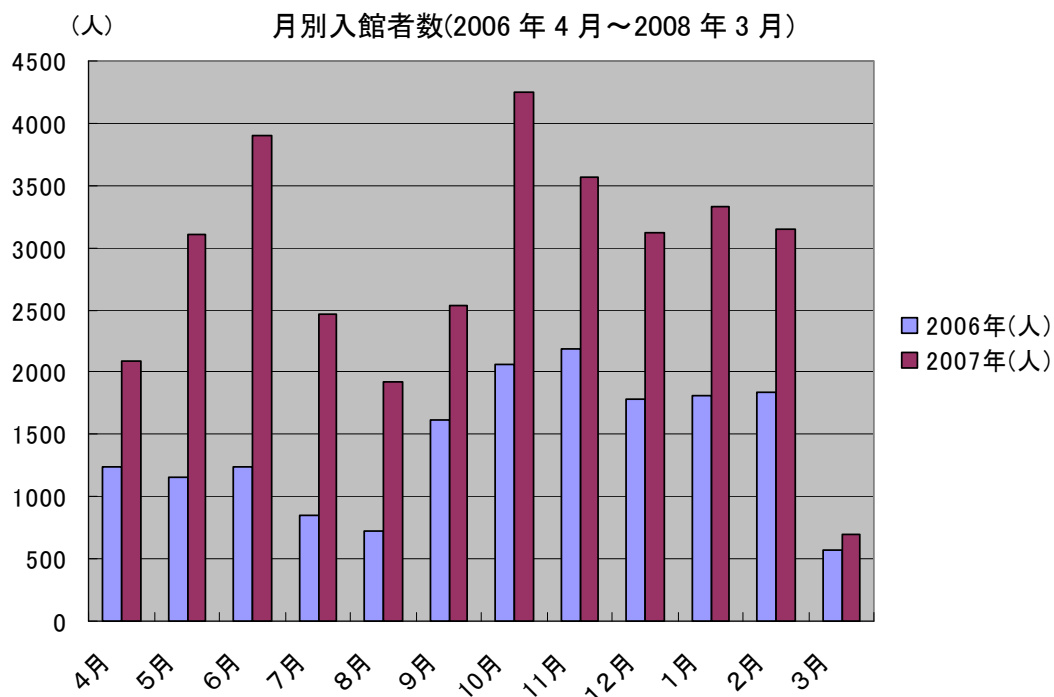
## 図書館利用実績

### I. 利用実績

項目	年度	
	2006	2007
開館日数(日)	268	263
入館者数(人)	17076	34153
貸出冊数(冊)	2530	3255
学生(冊)	2193	2974
教職員(冊)	337	281

(出典: 図書館統計)

### II. 月別入館者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
06年(人)	1235	1150	1233	844	729	1613	2065	2191	1790	1809	1839	578	17076
07年(人)	2094	3104	3903	2468	1920	2530	4255	3570	3127	3327	3155	700	34153

(出典 総合メディアセンター図書館 図書館資料から)

## 文献検索講習会の改善と効果の検証

和田 初枝<sup>†</sup>

### Improvement of Document Retrieval Course and Verification of Effect

Hatsue WADA

概要 サレジオ高専総合メディアセンター図書館では 2007 年度から卒業研究を行う 5 年生、および専攻科生を対象に情報検索技術の習得を目的として、文献検索講習会を行ってきた。2009 年度の実施にあたり、卒業研究担当教員へヒアリングを行ったところ、PC を使用した情報検索を行う際、“AND 検索”や“NOT 検索”等の検索技術を知らないため、効率の良い検索ができず、必要な情報を得ることができていないという問題が明らかになった。そこでこれらの問題解決を目指して、講習会の内容の改善を試み、さらに質問紙調査を実施し、改善と講習会の実施の効果を検証した。

### 1. はじめに

サレジオ高専総合メディアセンター図書館では 2007 年度から卒業研究を行う 5 年生、および専攻科生を対象に情報検索講習会を行ってきた。目的は卒業研究に必要な文献検索技術の習得である。これまで文献検索講習会では、電気系学科では図書と論文検索を中心に、デザイン科では雑誌の紹介と画像の検索を中心に行っていた。

2009 年度の実施にあたり、文献検索講習会に希望する点について各担当教員へのヒアリングを行ったところ、情報検索は主に PC による検索で行っているが、“AND 検索”や“NOT 検索”などの検索の技術を知らないため、つまりいてる学生がいる等の問題点が明らかになった。

そこでこれらの問題解決を目指して、講習会の内容の改善を試みた。さらに講習会実施後と卒業研究終了時に質問紙調査を実施し、内容の改善と講習会の実施の効果を検証する。

### 2. 文献検索講習会の詳細

これまでの文献検索講習会実施方法と内容について述べる。

実施方法は 6 月から 7 月にかけて、卒業研究の時間の 1 時間を利用し、図書館に隣接した総合メディアセンター情報館で PC を使いながら

行う。対象は 2007 年度は各学科ごとに、2008 年度以降は各学科もしくは希望する研究室ごとに講義および実習の方式で行ってきた。

内容であるが、まず研究における先行研究調査の必要性や先行研究の引用のルールなどについて触れる。次に先行研究調査の具体的なツールとしての図書や、雑誌、およびそれらを検索するツールであるデータベース等の説明を行う。次にこれらの検索を実習として実際に行ってみる。実際に操作するのは、本校の環境でいつでも利用できる“図書館 OPAC”、“Cinii”、“Webcat Plus”、“J-Stage”、“Goolge イメージ検索”等である。最後に参考文献の書き方について、簡単に説明している。以上のような内容によって研究における先行研究調査の意義、参考文献の利用のルール、情報検索方法を理解することにより、卒業研究にすぐに役立つ実践的な情報検索技術の習得を目指している。

2009 年度の講習会の実施にあたり、受講を希望した研究室の担当教員に、講習会への要望事項についてヒアリングを行った。そこで以下の課題が明らかになった。

講習会を実施する 6 月の時点でテーマに関する調査および分析が終了していなければならない。しかし調査分析の時点でのつまづきが見られる。文献検索を含む情報検索は主に PC を使用しているが、“AND 検索”や“NOT 検索”などの検索技術を知らないため、多くの情報量を前にして、検索のトップページ前後に表示されないと諦めてしまう。つまり効率の良い検索が

---

<sup>†</sup>教育支援課

できず、必要な情報を得ることができていないということである。

そこでこれらの問題を解決するために、講習会の内容を見直すことにした。

### 3. 改善点の抽出

ヒアリングの結果と、情報検索技術の習得という講習会の目的を踏まえ、講習会の内容を確認した。確認は『図書館利用教育ガイドライン—大学図書館版—[1]』において“情報探索法指導”で理解し習得すると記されている下記の項目を参考に行った。

- a. 情報探索法の意義
- b. 情報の特性
- c. 情報の評価のポイント
- d. 資料の基本タイプと利用法
- e. アクセスポイントと使い方
- f. 検索ツールの存在と利用法
- g. サーチエイドの存在と利用法
- h. 情報検索の原理
- i. 情報探索ストラテジーの立て方
- j. 自館資料の組織法と利用法
- k. レファレンスサービスの利用法
- l. 他機関資料の調査法と利用法
- m. ブラウジングの効用

確認の結果、以下の改善点を抽出した。

- ① 『図書館利用教育ガイドライン—大学図書館版—[1]』に示されている「h. 情報検索の原理」を内容に組み込んだ。これは教員のヒアリングでも指摘された効率の良い検索方法の習得を目指すものである。論文検索や Google の画像検索の実習の中で、“AND 検索”や“OR 検索”および“NOT 検索”を使って実際に論文や画像を検索することにした。
- ② 担当教員のヒアリングの結果でも情報検索は主に PC により行われていることが明らかになったこともあり、本校の環境において利用できる“図書館 OPAC や Cinii、連想検索もできる Webcat Plus 等の Web サイトにおける PC を利用した検索実習を中心に構成した。特に Cinii は機関定額制の契約をしており、本文の閲覧も可能な論文もあるデータベースであり、便利に利用できることから、この実習を重点的に行った。また検索実習では各自

の研究室の担当教員の論文を探すなど、学生が興味を持てるような例題で行い、満足度の向上を目指した。

- ③ 『図書館利用教育ガイドライン—大学図書館版—[1]』の「a. 情報探索法の意義」、「b. 情報の特性」、「c. 情報の評価のポイント」、「d. 資料の基本タイプと利用法」、「k. レファレンスサービスの利用法」、については、これまでも講義の中で、卒業研究における先行研究の意義と検索ツールの種類の中で説明してきた。しかし今年度は PC の検索実習に重点を置くため、講義では参考程度に言及し、実習の中で適宜説明することにした。
- ④ 「j. 自館資料の組織法と利用法」はテキストのみで触れ、「m. ブラウジングの効用」は検索技術を中心に構成するため省略した。
- ⑤ 「l. 他機関資料の調査法と利用法」については、Nacsis Webcat の実習の際に丁寧に説明し、実際の手続きに必要な書式はオリエンテーションのテキストに組み込み、必要な時はコピーして利用できるようにした。

### 4. 改善の効果の検証方法

文献検索講習会の改善効果の検証を行うために、講習会受講者（講習会終了後）と卒業生全員（卒業研究終了後）に対して質問紙調査を実施した。質問紙の内容は『図書館員による情報リテラシー教育の支援：質問紙の分析による評価[2]』を参考に以下のとおり構成した。

#### 【講習会受講者対象】

- ① 講習会の内容は充分であったか
- ② 各データベースや Web サイトや情報検索の技術を今後さらに利用したいと考えたか
- ③ 講習会受講までの図書館の利用頻度

#### 【全卒業生対象】

- ① オリエンテーションの受講の有無
- ② 各データベースや Web サイトおよび情報検索の技術を実際に利用したか
- ③ 2009 年度の図書館の利用頻度

次に検証方法について述べる。検証は以下の点について行う。

- ① 講習会の内容の満足度と各データベースおよび Web サイトや情報検索の技術を今後さらに利用したいと考えた割合
- ② 卒業研究に利用された各データベースや

## 特集「特色あるメディアセンターの活動」

### Web サイトや情報検索技術の割合

#### ③ 講習会の受講の図書館利用頻度への影響

①については「内容の満足度」と「今後利用したいか」と回答した割合で検証する。昨年度までのデータがないため、満足度の高いものについては、「利用したい」と考えるであろうと仮定し、両項目の割合の乖離で検証する。

②については①の割合と比較し、その効果を検証する。

③については講習会の改善という点と方向性の異なるものであるが、講習会受講による図書館利用への影響を検証する。

## 5. 質問紙の集計結果

2009年度の講習会は6月22日、6月29日、7月6日の3日間の日程で、デザイン工学科の2つの研究室、電気工学科、電子工学科、情報工学科の1つの研究室、計83名を対象に実施した。アンケートのそれぞれの質問項目には「無回答」が存在した。本稿では無回答があった項目については、無回答を除いた数を有効回答としている。

内容の充分さは、表1のとおり、ほぼ100%である。充分でなかった理由としては「早くてわかりにくかった」等の記述が見られた。次に今後利用しようと思う比率であるが、ほぼ100%の満足度と比較すると僅かであるが、低くなっている。「利用しようと思わない」理由として、「卒業研究に特に文献は必要ない」、「現在でも充分利用している」との記述が見られた。

実際に卒業研究に利用されたツールについては表2のとおりである。利用しなかった理由については受講者、未受講者ともに共通して「特に必要がなかった」、「研究室の文献で充分だった」との記述が見られた。未受講者においては「知らなかった」という理由が挙げられていた。

表3は2009年度の図書館の利用頻度を受講者、未受講者で比較したものである。「ほぼ毎日利用する」、「1週間に1～2回利用する」、「月に1～2回利用する」の項目で、受講者の方が高い比率となっている。

## 6. 改善の効果の検証

#### ① 講習会の満足度と今後の利用

表1の結果に見られるとおり、満足度は特に

表1 講習会受講者の実習項目の満足度と今後の利用について

	内容は充分である (%)	有効回答数 (人)	今後利用したい (%)	有効回答数 (人)
図書館 OPAC	100%	83	98.8%	83
Webcat Plus	100%	83	98.8%	83
Nacsis Webcat	98.8%	82	96.4%	83
Cinii	100%	83	98.8%	83
J-STAGE	100%	82	96.4%	83
検索エンジン	98.8%	83	96.4%	83
情報検索の原理	98.8%	83	96.4%	83

表2 卒業研究に利用されたツール

	講習会受講者 (%)	有効回答数 (人)	講習会未受講者 (%)	有効回答数 (人)
図書館 OPAC	36.6%	71	22.8%	57
Webcat Plus	14.5%	69	12.5%	56
Nacsis Webcat	13.0%	69	7.1%	56
Cinii	31.4%	70	39.3%	56
J-STAGE	16.2%	68	7.1%	56
検索エンジン	65.7%	70	77.2%	57
情報検索の原理	44.3%	70	64.3%	56

表3 2009年度の図書館の利用状況

	受講者 (%) (n=69)	未受講者 (%) (n=58)
ほぼ毎日利用する	2.9%	0%
1週間に1～2回利用する	11.6%	10.3%
月に1～2回利用する	36.2%	25.9%
ほとんど利用しない	40.6%	53.4%
利用したことがない	8.7%	10.3%

実際の図書や論文の検索実習を行った“図書館OPAC”や“Webcat Plus”, “Cinii”, “J-STAGE”で100%であった。これら実習には多めに時間を取り、興味のある図書や担当教員の論文などを自由に検索してもらった。それと比較すると、“Nacsis Webcat”、“検索エンジン”、“情報検索原理”はある程度の説明が必要であり、実習も説明に沿って行ってもらった。「内容が充分でなかった」理由に「早くてわかりにくかった」の記述が見られるとおり、説明の構成の不備が満足度に影響したと推測される。

以上の結果から、今年度、実習中心に構成し直した改善は効果があったのではないと言える。そして今後は、説明が必要となる項目について、重要ポイントに絞って行うなど、その構成に工夫が必要であると考えられる。

次に今年度から実習項目に加えた情報検索の原理であるが、講習会受講の満足度および「今後利用したい」という比率は高かった。それと比較して実際卒業研究に利用した比率は50%以下であった。また未受講者の方が利用した比率が高くなっている。その理由については本調査では明らかにすることができない。ただ「今後利用しようと思わない」理由の記述に「これまでも十分に利用している」という記述が見られた。つまりこれまでの日常の検索で、十分に活用していた学生もいたのではないかと推測できる。そして各自の卒業研究のテーマの情報検索の必要度により、実際の利用のバラツキがでたのではないとも考えることができる。以上のとおり講習会の満足度と利用したいと思った比率は高かったことから、普段何気なく使っている技術を、「情報検索の原理」というきちんとした知識の体系として説明することは意義のあったのではないかと考える。今後もこの点を考慮し、普段使っている便利な機能がどのような原理であるかを理解してもらうことで、さらに効果的な検索技術の習得ができる工夫を重ねたい。

② 卒業研究に利用された各データベースや

Webサイトや情報検索技術の割合

実際に卒業研究に利用されたツールについてはCinii以外のすべてのデータベースで、受講者の利用の比率が高くなっている。本調査では未受講者に対して、講習会で説明したデータベース等を知っていたかとういうことを調査してい

ないため、受講者の方が利用した比率が高い理由について明らかにできない。しかし未受講者の利用しなかった理由について少数であるが、未受講者で「知らなかった」の記述が見られた。つまり文献の所在を探す際のツールである、Nacsis Webcat や Webcat Plusなどは講習会で説明を受けた受講者の方がより利用できたのではないかと推測される。以上の点から改善の効果が多少あったと考えられる。しかし、その比率はすべて50%以下であり、「今後利用したい」と思った比率と比較すると極端に低くなっている。今後、利用しなかった原因を調査し、さらなる改善が必要であると考えられる。

③ 講習会の受講の図書館利用頻度への影響

表3の結果に見られるように、「ほぼ毎日利用する」、「1週間に1~2回利用する」、「月に1~2回利用する」項目においては、受講者の比率の方が高かった。逆に「ほとんど利用しない」、「利用したことがない」の比率は未受講者の方が高くなっている。以上のことから講習会の効果があったと考えることができる。しかしながら利用の比率は低いものであり、講習会の改善とともに図書館利用の促進についても今後検討すべき課題であると考えられる。

## 7. おわりに

2009年度の文献検索講習会は、担当教員のヒアリングと『図書館利用教育ガイドライン—大学図書館版—[1]』において“情報探索法指導”で理解し習得すると記されている項目に従い、改善点を抽出し、その内容の改善を目指した。その効果については、受講者と未受講者を含む卒業生への質問紙調査の結果で検証した。検証から新たな改善点も明らかになった。今後これらの改善を目指し、講習会の内容を検討し、情報検索技術の習得の支援に貢献できる講習会の実施を目指していきたい。

## 文 献

- [1] 日本図書館協会図書館利用教育委員会編. 図書館利用教育ガイドライン：図書館における情報リテラシー支援サービスのために. 東京, 日本図書館協会, 2001.
- [2] 安井裕美子. “図書館員による情報リテラシー教育の支援: 質問紙の分析による評価”. 名古屋大学附属図書館研究年報 3, PP23-31, 2005.

## サレジオ高専の“共育”コミュニケーション

森 幸男<sup>†</sup>

A Joint Communication Support System for Teachers and Guardians in Salesian Polytechnic

Yukio MORI<sup>†</sup>

概要 サレジオ高専は、創立者ドンボスコの教育理念である「アシステンツァ」を実践した教育を行っている。アシステンツァの実践には教員と保護者が共に教育を行う“共育”の実践が有効である。総合メディアセンターは、“共育”を促進するために、ITの環境を利用して両者のコミュニケーションがスムーズに行われるよう支援する。本稿では、その目的で導入した「メールマガジンシステム」について紹介し、ITによる“共育”支援としての方向性を示す。

### 1. はじめに

サレジオ高専は、創立者ドンボスコの教育理念に基づき、アシステンツァ[1]と呼ばれる教育方針を実践して、人間性教育・技術者教育を行っている。アシステンツァは、「共にいる教育」「寄り添う教育」とも呼ばれている。教育者と学生が物理的にも精神的にも近くにいるということから、学生は愛情を感じ、納得の元に知識等を受け入れることができる。教育者と学生のコミュニケーションを密にするだけでなく、教育者と保護者のコミュニケーションも密にすることによって、学校でも家庭でもアシステンツァが実践できる。このような教員と保護者の関係を“共育”と呼ぶことにする。“共育”によって、人間性教育を高めることが期待できる。

総合メディアセンターは、学内のIT環境を整備・運用しており、IT環境を利用した積極的なコミュニケーション方法を提供する使命を担っている。そのひとつの方法として「メールマガジンシステム」がある。メールマガジンシステムは、一般に、配信者が固定できる。したがって、配信者を適切に選択することによって、プライバシー侵害や情報漏洩など情報倫理に抵触するようなメールの配信を防ぐこ

とが可能であるという利点がある。また、メールはテキストベースの情報であるから比較的作成が容易である。ゆえにリアルタイム性の高いコミュニケーションを実現することができる。そこで、本センターでは、これらの特徴を有するメールマガジンを導入し、“共育”コミュニケーションの支援を行うことになった。本稿では、導入したメールマガジンシステムについて紹介し、ITによる“共育”支援としての方向性を示す。

### 2. 従来の教員と保護者のコミュニケーション形態

ここでは、従来、本校で行われている、教員と保護者のコミュニケーションについて検討し問題点を明らかにする。

本校においては、図1のような学生、教員、保護者の三位一体の関係から、学生の総合的な人間性教育を行っている。この教育にはお互いのコミュニケーションの関係の良し悪しが大きく関わってくる。

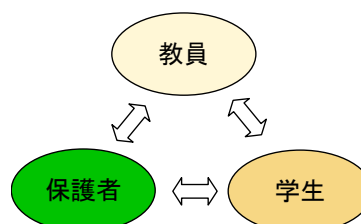


図1 学生、教員、保護者

<sup>†</sup>機械電子工学科

Department of Mechanical and Electronic Engineering



教員と学生、または学生と保護者については、それぞれ Face to Face の関係を構築しやすいので、それぞれのコミュニケーションについては特に問題は感じない。ところが、教員と保護者の間は、一般に Face to Face の関係を構築しにくいので、コミュニケーション不足となりがちとなる。

本校では、従来、父母会（保護者会）を重要視しており、懇談会を多く実施するなどして教員と保護者が Face to Face の関係を持てるような行事を計画し実践している。Face to Face の関係によって、教員と保護者のコミュニケーションはスムーズになる。これによって教員は学生の「親」としての気持ちが理解できるようになり、保護者と同じような視線で学生に接することができるようになる。換言すれば、教員と保護者が共に教育を行う、すなわち“共育”が可能となる。これはアシステンツァの実践に他ならない。したがって、教員と保護者が Face to Face の関係を構築できるようにして、コミュニケーションをスムーズにすることが肝要であることがわかる。

近年、IT 環境の発展・普及はめざましく、平成 22 年度版情報通信白書によれば、インターネット人口普及率は年々増加しており、平成 21 年末で 78.0% であった[2]。これは、コミュニケーションの形態が WEB や電子メールなど IT 環境を利用したものに移行してきていることを意味していると考えられる。

このような IT 環境の普及を意識して、総合メディアセンターでは、平成 19 年度に学校ホームページ[3]のリニューアルを行い、保護者向けの情報として表 1 のようなトピックを作成し発信してきた。ホームページを利用した情報提供は、時と場所を選ばない情報提供であるという利点がある。しかし、情報の受信者が自ら情報を取りに行く必要があること、記事の WEB ページ化に時間がかかることから、情報発信のリアルタイム性が低いという欠点がある。

電子メールサービスはコミュニケーションツールとしては手軽に扱える。情報をタイムリーに発信することが可能であるので、ホームページによる情報発信のリアルタイム性の問題を解消できる。教員と保護者のコミュニケーションのツールとして電子メールサービスを利用する場合、教員と保護者の一対

表 1 保護者向けホームページトピック

項目	内容
TOPICS	ニュースなど時事的内容
父母会	父母会活動情報（掲示板） イベント情報（掲示板） 配布物データベース
学生寮	寮通信
教務関連	公開授業案内等

※必要に応じてアクセス制限を行っている

一通信のみならず、一対多（教員から保護者）、あるいは多対多通信の形態が必要となる。したがって、電子メールでコミュニケーションを行うためには、メーリングリスト（ML）を作成し運用することになる。ところが、ML を用いたコミュニケーションでは次のような問題が生じてしまう。

- ① 発信情報の内容を監査する機能がないとプライバシー侵害や情報漏洩などの情報倫理にかかわる問題が発生する恐れがある
- ② ユーザ数が大量となりやすく、メールアドレスの追加削除などの管理が困難である

①の問題点の根本要因は利用者のモラルにかかわるところが大きく、簡単には解決できない。そこで、本センターでは、教員と保護者の共育コミュニケーションを支援するためにメールマガジンシステムを利用しようと考え、平成 21 年度から導入・運用を行っている。もちろんメールマガジンだけでは一方向の情報伝達になるので、別の問い合わせ窓口を用意し、擬似的に双方向の通信ができるようにしなければならない。3. において、導入したメールマガジンシステムの詳細を述べる。

### 3. メールマガジンシステムの導入

導入したメールマガジンは、株式会社シーズの提供するフリーのメール配信 CGI “acmailer” を利用した[4]。マニュアルやトラブルシューティングなどのサポートも充実しており、使用しているユーザの数も比較的多い。acmailer の主な特徴を以下に示す（ホームページ[4]より抜粋）。

- (1) 空メール登録／ダブルオプトインに対応

## 特集「特色あるメディアセンターの活動」

- (2) ケータイ3キャリア対応
- (3) 予約配信対応
- (4) CSV メールアドレス管理
- (5) 絞込み配信対応

ユーザは、メールマガジン講読のために自分のメールアドレスをシステムに登録する必要がある。**acmailer**では、空メールやダブルオプトイン機能<sup>(注)</sup>により、個人情報保護に優れた登録が可能になっている。また、メールマガジンの講読を中止したい場合も、ユーザの意思で行うことが可能となる。この機能によって、MLで問題であった管理者のメールアドレスの登録解除の負担を減らすことができる。また、CSV形式でメールアドレスを出力できる、管理者画面においてメールアドレスの登録や解除が一括処理できるなど、管理者が作業する場合でも有益な機能もある。さらに、**acmailer**はインストール作業が容易であり、システムのメンテナンスについても特別な専門知識を必要としない。

電子メールの利用者の多くは、携帯電話のメールアドレスを用いる場合が多い。携帯電話のメールシステムは、携帯電話会社（docomo、SoftBank、au等）において迷惑メール防止などが行われているため、対応した配信を行わないとメールがブロックされたり配信が受け付けられなくなったりすることがある。また、文字コードも異なることがあるので、特にデコレレーションメールやHTMLメール等の配信に制限が生じる。**acmailer**では、これらの制限に対応し、安定した配信が可能になっている。

メールマガジンシステムでは、配信できる管理者が固定される。したがって、配信可能な管理者を適切に選択することによって、プライバシー侵害や情

<sup>(注)</sup> ダブルオプトイン機能とは[4]

次のような手順でメールアドレス登録を行う方式。

- ・ システムは一旦仮登録状態として、登録者に確認メールを送る
- ・ ユーザは仮登録メールに記載されたURLをクリックする
- ・ システムが登録者を本登録する

この方式ではユーザの事前承認なしで登録ができないため、個人情報保護、SPAM防止の観点から望ましいと言われている。

報漏洩など情報倫理に抵触するようなメールの配信を防ぐことが可能であるという利点がある。MLでは、原則としてすべてのMLメンバーがメールを送ることができるので、情報倫理に抵触する恐れが残る。メールマガジンシステムはこの問題に対して解決を与える。

以上のように、メールマガジンシステムは、2.で述べたMLによるコミュニケーションの問題点を解決する。しかし、前述したように、メールマガジンは一方向の情報伝達になるので、別の問い合わせ窓口を用意し、擬似的に双方向の通信ができるようにしなければならない。現在のところ、メールマガジンに対しての返信先はWEB管理者としている。メールマガジンに対しての問い合わせがあったときにはWEB管理者が速やかに関係者へ転送し、双方向通信となるようにしている。

## 4. メールマガジンシステムの運用状況

ここでは、メールマガジンシステムの運用状況を紹介する。

表2に、平成22年7月21日現在の利用者登録状況を示す。利用登録は義務ではなく、利用者の自由意志による。卒業生保護者と教職員等を除くと、登録者はのべ231名である。平成22年度の学生総数が753名であることから、30%の加入率であることがわかる。特に2年生、3年生の保護者の登録が多いことがわかる。2年生や3年生は、他学年に比べると比較的多感な時期と考えられる。保護者としても学校の情報をよりいっそう必要としているのではないかと推測できる。この学年に情報を多く配信す

表2 メールマガジンの利用者登録状況  
単位 [名]

登録者数計 (のべ人数)	250
内訳	
(保護者)	
1年	25
2年	88
3年	60
4年	34
5年	22
専攻科	2
卒業生	9
教職員等	10

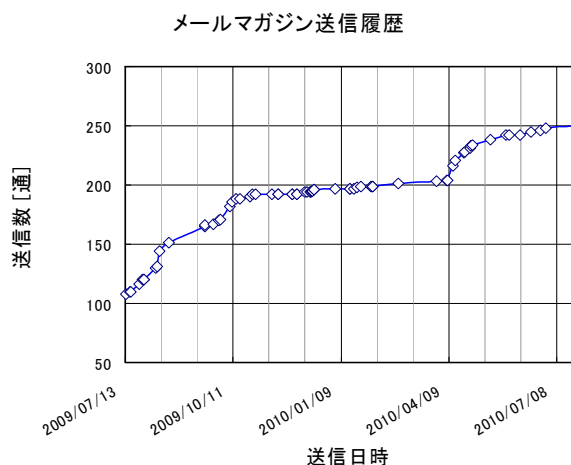


図2 メールマガジンの送信履歴

ることによって、より“共育”を支援することができるとはならないかと考える。これは今後検討していく必要があるだろう。

一方で、1年生保護者の登録数が少ないことがわかる。これは今年度保護者に対しての宣伝が不足していたことに起因すると考えられる。昨年は、新型インフルエンザの影響もあって登録を強く求めている経緯がある。今後、登録を呼びかけ、より共育コミュニケーションが推進するよう取り計らう必要がある。

図2は、運用開始から現在までのメール送信履歴である。横軸は送信日時であり、縦軸は送信数である。送信数は登録者数の推移にもなっている。新年度が開始したときに利用者数が急増していることがわかる。発行は不定期であるが、頻度は1週間に1通程度の割合であることがわかる（平成22年7月21日に第63号が発行されている）。

現在のところ、メールマガジンは、メール内容の精査判断の権限を持つ事務長が発行している。図3は、メールマガジン発行までのフローである。図からわかるように、現在は、情報の収集・記事の制作を一人で担当しており、担当者に相当の負担がかかっている。今後は、負担を軽減するためのメールマガジン発行方法について検討する必要がある。

なお、運用しているメールマガジンでは保護者全員の登録を義務付けてはいないので、緊急連絡とし

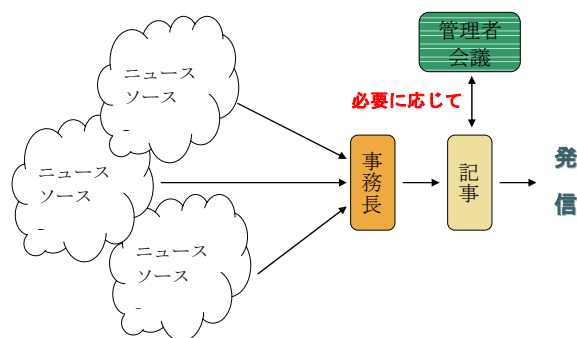


図3 メールマガジン発行までのフロー

での情報提供には適さない。しかしながら、メールマガジンのリアルタイム性は緊急連絡用としての利用に適していることが明らかである。したがって、メールマガジンシステムを緊急連絡に応用する方法についても早急に検討し、より高速で確実なコミュニケーションの提供に努める必要がある。

## 5. おわりに

サレジオ高専の教育理念であるアシステンツァをIT環境を用いて支援するために、メールマガジンシステムを導入した。メールマガジンシステムとWEB管理者の問い合わせ窓口によって、情報倫理に抵触せず、管理者の負担を軽減したリアルタイム性の高いコミュニケーションを実現することができた。すなわち、“共育”コミュニケーションの支援を行うことが可能になった。いくつかのデータを用いて、導入したメールマガジンシステムの運用状況を示した。IT環境を用いたコミュニケーションには大きな可能性が存在すると考えられる。今後、より高速で確実な“共育”コミュニケーションの提供に努めていきたい。

## 文献

- [1] 岡道信, 共にいる教育—アシステンツァ, ドンボスコ社, 1996.
- [2] ー, 平成22年版情報通信白書, 総務省, 第4章, 第1節, p.160, Jul. 2010.
- [3] サレジオ高専ホームページ, <http://www.salesio-sp.ac.jp/>, Dec. 2007.
- [4] acmailerホームページ, <http://www.acmailer.jp/>

# コラム

## 情報モラル観

一般教育 花山康雄

情報が氾濫していると言われて久しい。もちろんすべての情報が悪いわけではなく、様々な情報をうまく利用できないことが問題なのである。一口に情報といっても単なる知識としての情報（インフォメーション）と知恵としての知識（インテリジェンス）があり、本校の情報倫理という科目の中でも情報には6種類の特性があることを教えている。情報をうまく利用し活用するためには上記のことを考慮しないと情報に振り回されることになる。

いくつか例をあげてみよう。私たちは何かを知りたいと思ったとき、どのように情報を集めるであろうか。普通は自分の納得できるような情報を集めるのではないだろうか。しかし、この時点ですでに集める情報には自分の意図が入り込んでいるのである。人は自分が信じたいことだけを聞き、信じたくないことを初めから集めようとはしない。また、情報を発信する人は当然、発信したい情報だけを出し、都合の悪い情報は出さない。つまり、情報を公平に集め、正しく分析し、正しく理解するのはかなり経験を積んでいないと難しいのである。

テレビなどの情報はどうか。ちゃんとした報道番組でも、映し出されるのはごく一部分だけである。もしかしたら、肝心な情報は映し出されなかったかもしれないのである。それどころか、見た人々に誤解を与えるように映し出されるかもしれないのである。だから、できるだけ複数の情報源から情報を集める努力がいる。

さらに、最初に情報が氾濫していると言ったが、必要な情報はそこにはないのかもしれないのである。そう、私たちは氾濫する情報から正確に必要な情報を選び出すだけでなく、集められなかった情報も状況証拠から類推するという知恵が求められるのである。

こうして集められた正しい情報はお金や腕力と同じで多ければ多いほど私たちの役に立つものである。しかし、これでめでたしめでたしにならないのである。

情報はお金や腕力と同じく使い方を誤ると多くの人を傷つけたり困らせたりもする。悪い情報を掲示板などでばらまいたりして人を傷つける心無い人があるのは衆知のことである。普通、人のうわさも75日なのだが、ネットの世界ではネットがある限り消えずに残っていつまでも人を傷つけてしまう。

結局、現代の世の中で正しく生きていくには最終的には情報、お金、腕力を正しく使えるかどうかにかかっているのである。このことをどうやって学ぶかというと、すでに解決策はあるのである。それは何かというと、昔から言われていることを学びなおせばよいのである。情報を使うのは人である。人は昔から精神的には全然進化してはいない。だからこそ、幼い頃から正しく生きていくにはどうしたら良いのかを親や先生から学ぶのである。未熟な精神を持つものに多くの情報、お金、腕力があると危険である。今こそ、昔ながらの知恵が必要ではないだろうか。

## 資料編

# 1. 総合メディアセンターについて(info2010 より引用)

総合メディアセンターは、図書館、情報館に関する企画・立案・運営を行う部署である。

## [1] 活動方針（ポリシー）

本センターは利用者の創造力を伸ばすサービスを行うことをポリシーとする。

1. 図書館の管理、運営、情報提供、学生利用環境について担当し、図書情報に関する研究を通じて教職員への教育研究サービス、また学生利用の促進を通して情操教育、人格形成に寄与する。
2. 情報館の管理、運営、情報提供、学生利用環境について担当し、情報教育環境の整備、学内の情報環境の整備、支援サービスに努める。
3. 学内行事の記録・管理、学科からの情報提供、募集に関する情報、その他の有益な情報などを収集・管理し、これらの情報をホームページ等に反映させて学内外へ情報を発信する。

## [2] 組織

本センターの組織を図1に示す。メディアセンターはメディアスタッフ会議によって検討されセンター長の決済によって運営されている。業務形態から、「センター広報・啓蒙」、「センター運用」、「WEB運用」の3部門に分けてセンターを運用している。それぞれの部門の主な業務は以下の通りである。

1. センター広報・啓蒙 センター活動の広報誌等の発行, 啓蒙活動として各種のイベントの実施（講習会や講演会等）, 学内と地域の連携の企画・実行
2. センター運用 図書館運用, 情報館設備機器類（PC, ネットワーク機器等）の管理運用
3. WEB運用 学内センターやクラブ活動の取材・原稿作成, 広報的素材の取材・原稿制作（SHIP, 環境対策等）, その他記事・情報の収集と発信  
また、学生図書情報委員が組織され、センター業務の補助的または実質的活動を行っている。

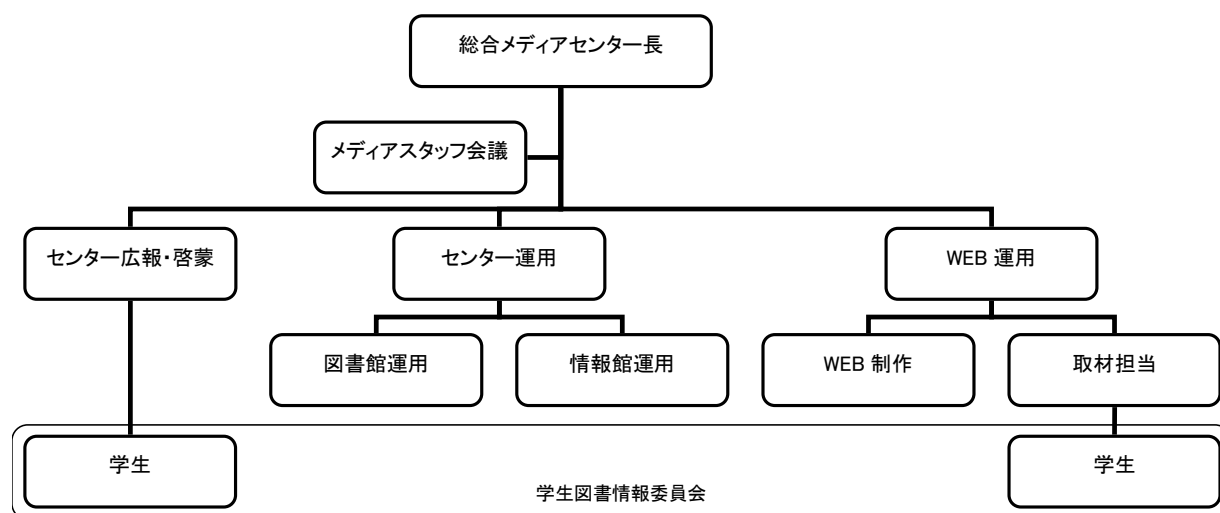


図1 総合メディアセンターの組織

## 2. 各種データ

### [1] 図書館・情報館関連

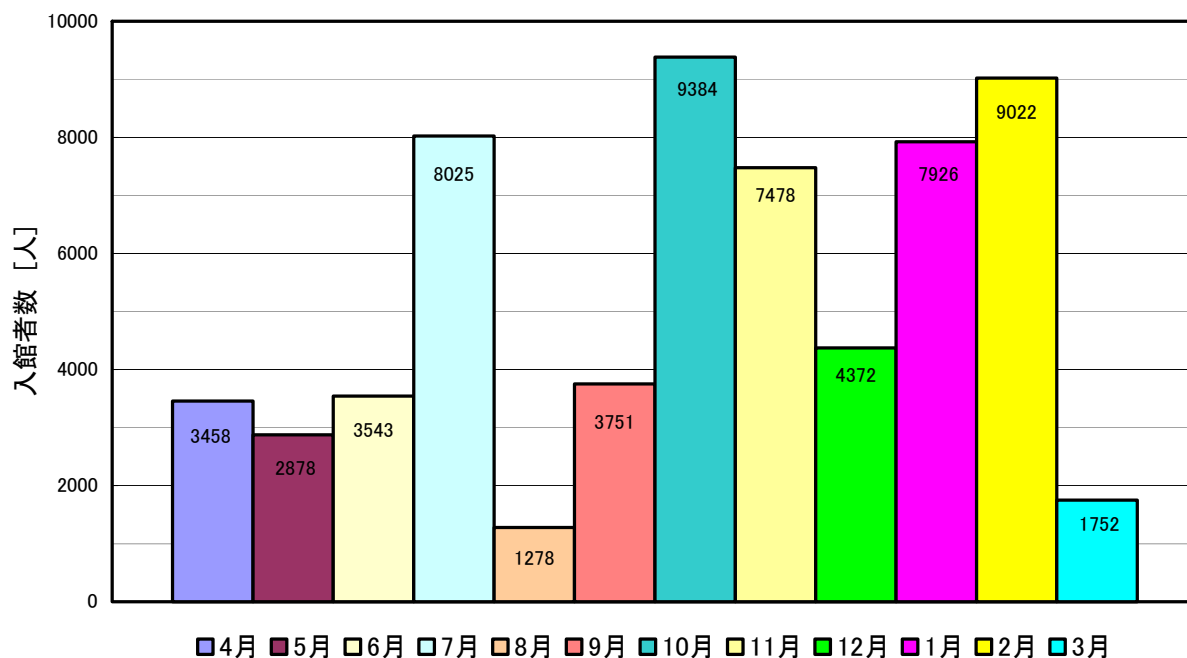
#### (1) 入館者数

2009 年度開館日数252 日

2009 年度入館者総数 62,867 人

月	入館者数 [人]
4 月	3,458
5 月	2,878
6 月	3,543
7 月	8,025
8 月	1,278
9 月	3,751
10 月	9,384
11 月	7,478
12 月	4,342
1 月	7,926
2 月	9,022
3 月	1,752
計	62,867

#### メディアセンター入館者データ

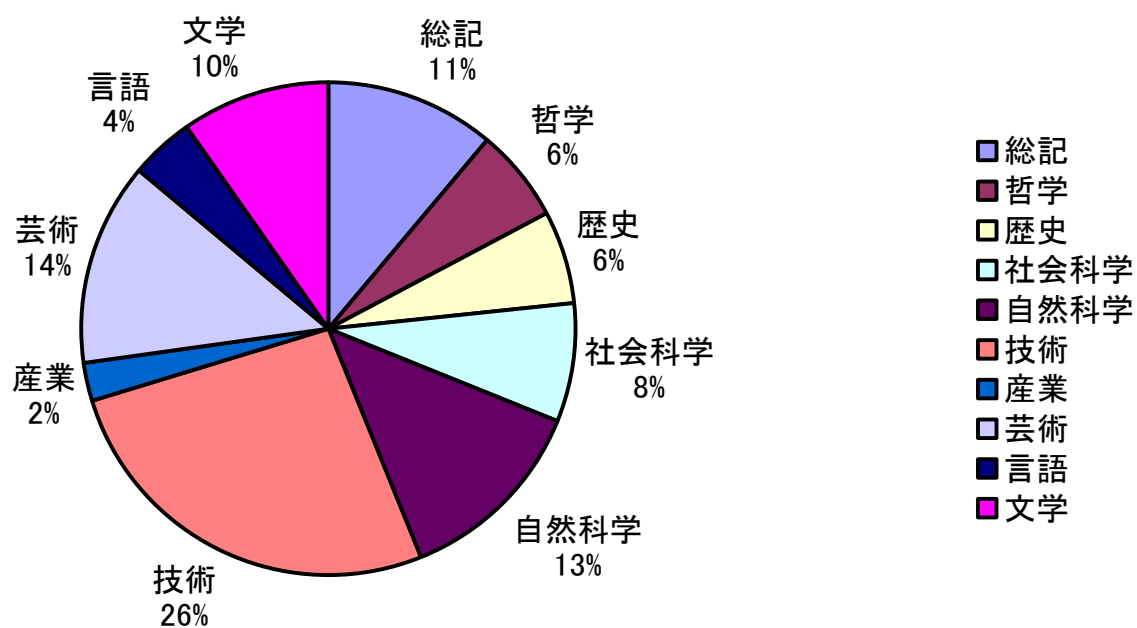


(2) 図書館蔵書数

H21(2009)年度 蔵書数

分野	蔵書冊数 [冊]	百分率[%]
総記	6,079	11.0
哲学	3,497	6.3
歴史	3,268	5.9
社会科学	4,371	7.9
自然科学	7,037	12.8
技術	14,505	26.2
産業	1,375	2.5
芸術	7,499	13.5
言語	2,283	4.1
文学	5,312	9.6
合計	55,226	100.0

分野別蔵書冊数



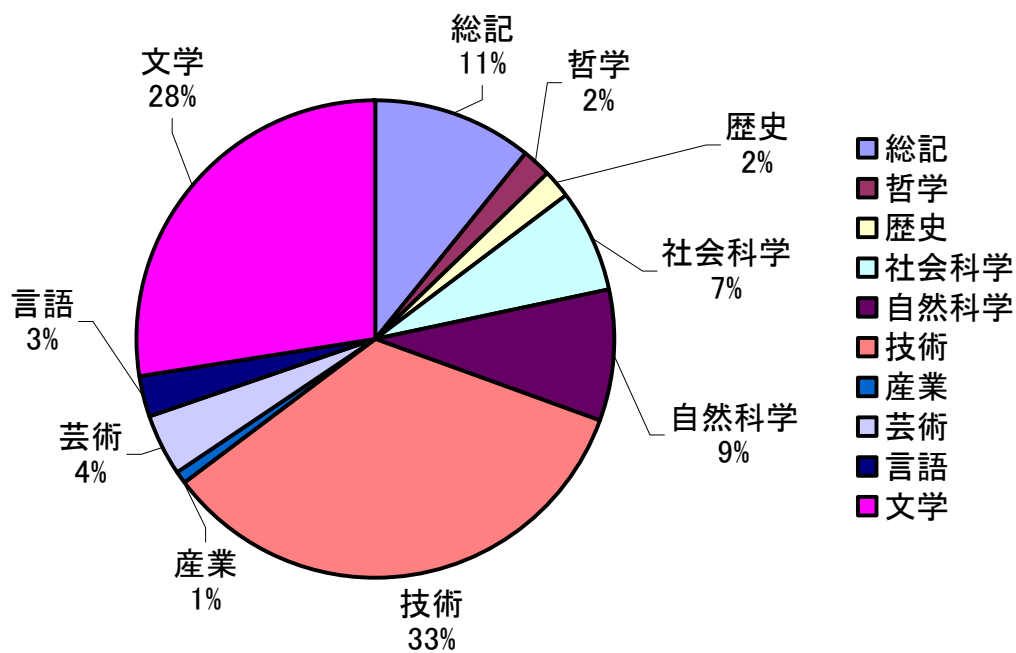


- (3) 図書貸出冊数
- (a) 分野別貸出冊数

H21(2009)年度

分野	貸出冊数[冊]	百分率[%]
総記	334	10.7
哲学	63	2.0
歴史	57	1.8
社会科学	216	6.9
自然科学	283	9.1
技術	1,056	34.0
産業	31	1.0
芸術	124	4.0
言語	89	2.9
文学	855	27.5
合計	3,108	100.0

### 分野別貸出冊数



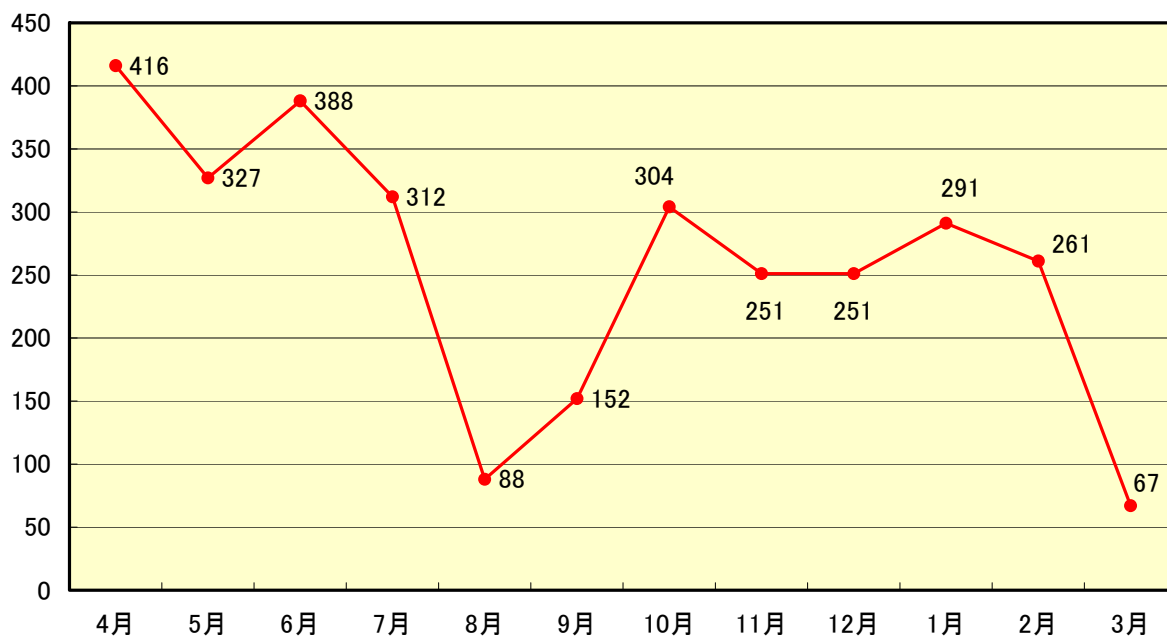
(b) 月別貸出冊数

H21(2009)年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
冊数	416	327	388	312	88	152	304	251	251	291	261	67

※貸出総冊数 3,108 冊

月別貸出冊数



## (4) PC 教室利用状況

H21(2009)年度

## 1 2 3 室利用状況

曜日	時間	クラス	科目	担当教員	備考	授業数
月	3～4 限目	1 B	情報倫理	石川		1
月	7～8 限目	1 C	情報倫理	石川		1
火	1～2 限目	2 A	情報処理	菅原	後期のみ	0.5
火	3～4 限目	2 A	情報処理	菅原	前期のみ	0.5
火	5～6 限目	4 E C	電子回路Ⅱ	吉田		1
水	3～4 限目	3 C S	計算機概論Ⅱ	内田	後期のみ	0.5
水	5～6 限目	3 C S	デジタル回路設計	吉田	後期のみ	0.5
水	7～8 限目	1 D	情報倫理	石川		1
木	1～2 限目	1 D	情報工学概論	米山	前期のみ	0.5
木	1～4 限目	1 D	プログラミング基礎	小出	後期のみ	0.5
木	5～6 限目	4 A D	自然科学概論	花山	前期のみ	0.5
木	5～6 限目	5 C S	DTP・組版	杉本	後期のみ	0.5
木	7～8 限目	5 C S	ソフトウェア工学Ⅰ	大島	前期のみ	0.5
金	1～2 限目	3 E C	アルゴリズム論	米山		1
金	3～4 限目	4 A D	プレゼンテーション	西野	後期のみ	0.5
金	5～6 限目	1 A	情報倫理	花山		1

※授業数は週当たりの開講コマ数（1コマ＝90分）

## ノートPC利用状況

曜日	時間	クラス	科目	担当教員	備考	授業数
月	7～8 限目	4 C S	プレゼンテーション	杉本		1
火	1～2 限目	4 C S	ビジネス情報システム	大島	後期のみ	0.5
火	5～6 限目	4 E C	電子回路Ⅱ	吉田		1
火	7～8 限目	1 C S	情報社会論	小出	後期のみ	0.5
水	1～4 限目	3 C S	情報通信システムⅡ	大島		1
水	5～6 限目	3 C S	デジタル回路設計	吉田		1
水	7～8 限目	4 C S	プログラミング応用	米山		1
木	1～2 限目	4 C S	数値計算Ⅱ	島川	後期のみ	0.5
木	3～4 限目	4 E E	メカトロニクス	斎藤		1
木	7～8 限目	3 E C	電子工学実験	米盛		1
金	3～4 限目	4 C S	技術文書作成	杉本	前期のみ	0.5

※授業数は週当たりの開講コマ数（1コマ＝90分）

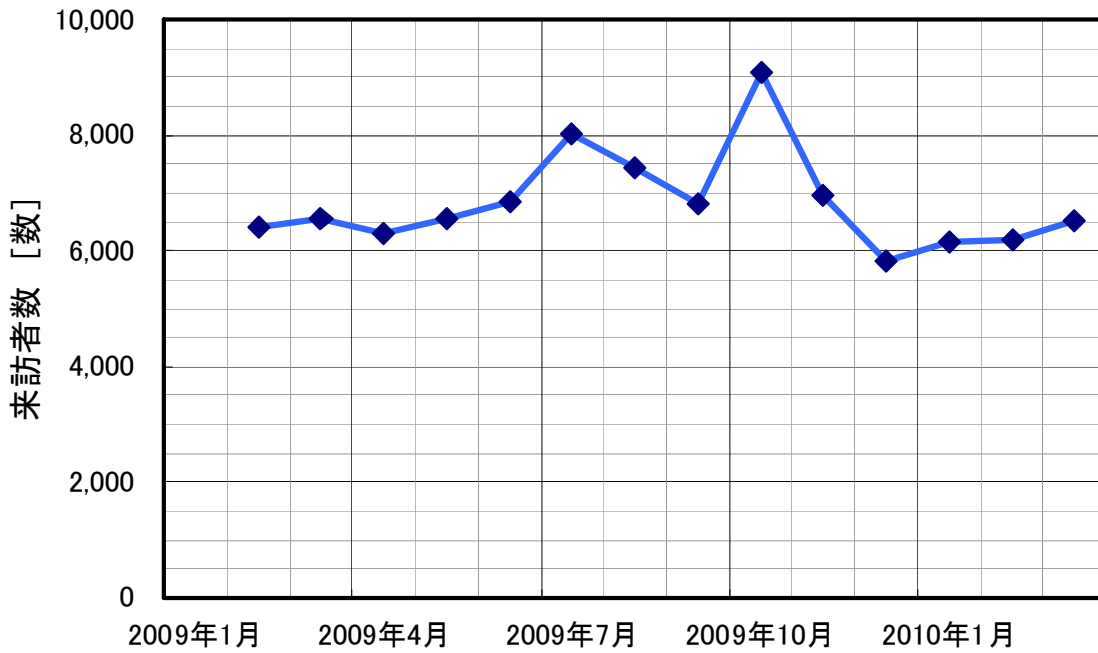
## [2] WEB 関連

### (1) 年間来訪者数

年月	ユーザ数	400 ユーザ以上の来訪を記録した日	備考
2009年1月	(未計測)		
2009年2月	6,424	4日(414)	該当日が高い理由は不明
2009年3月	6,543		
2009年4月	6,303		
2009年5月	6,568		
2009年6月	6,840		
2009年7月	8,011	21日(442)、27日(400)、30日(403)	該当日が高い理由は不明 (「プラネタリウム 作り方」のキーワード検索 来訪者が一番多いのはこの月)
2009年8月	7,444	8日(549)	8月8日は最初の新型インフル感染者告知
2009年9月	6,812		
2009年10月	9,083	8日(1,039)、9日(405)、13日(406)、15日(429)、21日(424)、22日(400)、26日(501)、27日(495)、28日(430)、29日(446)、30日(538)、31日(546)	10月8日は台風による休校 10月下旬は育英祭
2009年11月	6,948	1日(425)	11月1日は育英祭
2009年12月	5,813		
2010年1月	6,158		
2010年2月	6,188	18日(426)	該当日が高い理由は不明
2010年3月	6,530		
<b>年間来訪者数</b>	<b>80,228</b>		

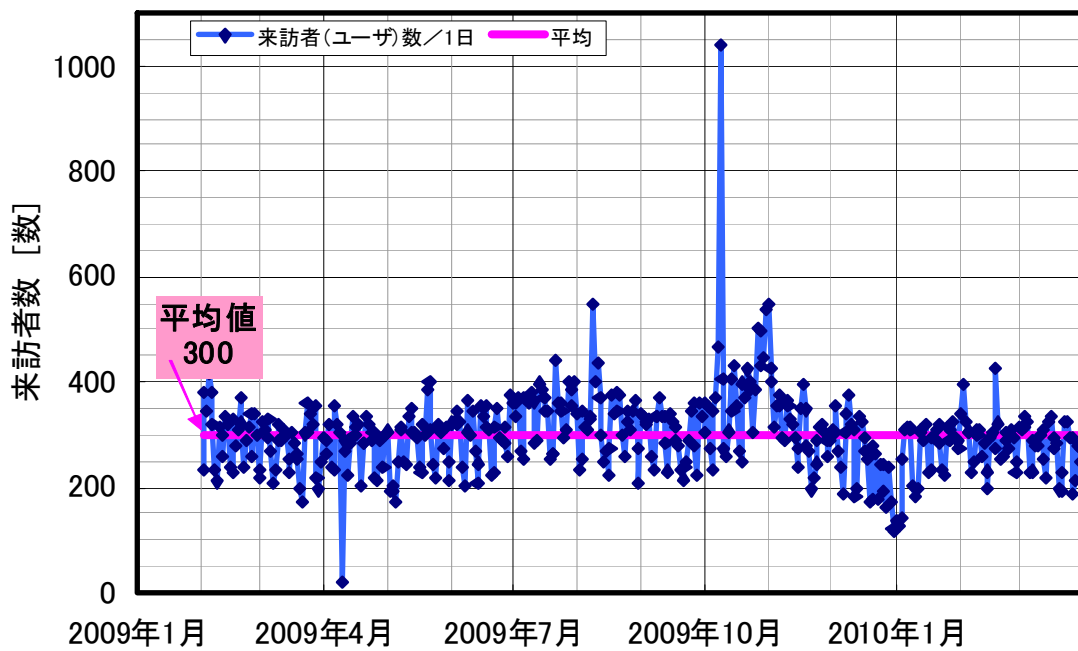
解析ツール Google Analytics  
 解析期間 2009年2月1日(解析導入月)～2010年03月31日  
 対象アクセス 学外からのアクセスのみ  
 解析サイト サレジオ高専メイン、SHIP、技術屋メモ  
 集計単位(月別) 「ユーザ数」＝同月に何人がサイトを訪れたか(重複はカウントしない)  
 集計単位(年間) 「ユーザ数」＝年間何人がサイトを訪れたか(重複はカウントしない)  
 ※ 「ユーザ数」は、WebブラウザのCookieを利用して「1PC」＝「1ユーザ」としている  
 ※ 「年間来訪者数」は年間を通して重複なくサイトを訪れたユーザ数  
 (月別のユーザ数を単純合計したものではありません)  
 ※ 特に来訪者の多かった日として、1日平均(300人)を100人超えた日＝400人以上を記録した日を月毎に抽出  
 ⇒ [【参考リンク】GoogleAnalyticsヘルプ「クリック数、セッション数、ユーザー数、ページビュー数、ユニークセッション数の違いは何ですか。」](#)

年間来訪者数(2009年2月～2010年3月)



(2) 年間来訪者数 (1日単位での集計)

年間来訪者数(1日単位)(2009年2月1日～2010年3月31日)



(3) サイト内年間ページ別セッションランキング

順位	カテゴリ	ページタイトル	セッション数
1	(基本)	<a href="#">サレジオ高専 ホームページ トップ</a>	97,603
2	学校案内	<a href="#">トップメニュー</a>	29,888
3	学科紹介	<a href="#">トップメニュー</a>	21,617
4	キャンパスライフ	<a href="#">トップメニュー</a>	14,892
5	中学生・受験生の方へ	<a href="#">トップメニュー</a>	14,684
6	(基本)	<a href="#">交通アクセス</a>	13,769
7	学内の方へ	<a href="#">トップメニュー</a>	8,731
8	技術屋メモ	<a href="#">「自作プラネタリウム」制作マニュアル</a>	6,083
9	一般の方へ	<a href="#">トップメニュー</a>	5,988
10	中学生・受験生の方へ	<a href="#">本科 学生募集要項</a>	5,937
11	学校案内	<a href="#">サレジオ高専の特長</a>	5,449
12	学校案内	<a href="#">サレジオ高専の進路状況</a>	5,324
13	TOPICS	<a href="#">トップメニュー</a>	5,283
14	SPECIAL	<a href="#">『サレジオ高専 学校案内』パンフレット</a>	5,073
15	(基本)	<a href="#">【重要】新型インフルエンザの国内発生に伴う動きについての告知・対策</a>	5,054
16	学科紹介	<a href="#">デザイン学科</a>	4,775
17	学校案内	<a href="#">校長からご挨拶</a>	4,683
18	卒業生の方へ	<a href="#">トップメニュー</a>	4,142
19	企業の方へ	<a href="#">トップページ(求人票・インターンシップ)</a>	3,993
20	SPECIAL	<a href="#">トップメニュー</a>	3,674

解析ツール Google Analytics  
 解析期間 2009年2月1日(解析導入月)～2010年03月31日  
 対象アクセス 学外からのアクセスのみ  
 解析サイト サレジオ高専メイン、SHIP、技術屋メモ  
 集計単位(年間) 「ページ別セッション数」＝ユーザがサイト来訪時に訪れたページ  
 (短時間内に重複して開いたページはカウントしない)

※ 「ユーザ数」は、WebブラウザのCookieを利用して「1PC」＝「1ユーザ」としている  
 ※ 「ページ別セッション数」は、1ユーザがサイト閲覧中に同じページを複数回開いても1カウントとして算出している(各トップページ等、操作上何度も開かれるページのカウント数だけが突出することを防止)  
 ※ 「セッション」とは、訪問ユーザのブラウザと特定のWEBサイトのやりとりが継続する期間。  
 ここでは、ユーザが30分間サイトで操作を行わないとセッション終了としている。  
 ⇒【参考リンク】[GoogleAnalyticsヘルプ「クリック数、セッション数、ユーザー数、ページビュー数、ユニークセッション数の違いは何ですか。」](#)

## (4) サイト内年間ページ別セッションランキング

順位	掲載日	トピックタイトル	ページ別セッション数
1	2009年3月6日	<a href="#">TVK (テレビ神奈川) の生放送に本校の教員・学生・ロボットが出演しました</a>	912
2	2009年10月9日	<a href="#">陸上競技部の影山さんが「関東高校選抜新人大会」へ出場決定を果たしました</a>	697
3	2009年3月4日	<a href="#">「2008年度 デザイン工学科 卒研展」のご案内 (2009/03/14-15開催)</a>	671
4	2009年2月27日	<a href="#">故・鈴木勝重神父 (元校長) の葬儀と追悼式が挙行されました</a>	636
5	2009年1月23日	<a href="#">木戸教授退任に伴う最終講義と慰労懇親会のご案内 (2009/3/14開催)</a>	629
6	2009年3月19日	<a href="#">木戸能史教授の最終講義と慰労懇親会が開催されました</a>	605
7	2009年9月18日	<a href="#">「国際交流フェスティバル 2009」のポスターに本校学生のデザインが選ばれました</a>	558
8	2009年7月16日	<a href="#">テニス部が「2009 高専体育大会」全国大会へ団体戦・個人戦共に出場決定を果たしました</a>	535
9	2009年4月17日	<a href="#">平成 21 年度入学式を行いました</a>	534
10	2006年11月2日	<a href="#">元校長F.ヘンドリックス先生が「瑞宝中綬章」を叙勲されました</a>	529
11	2009年3月5日	<a href="#">本校卒業生 箱崎 光弘氏が開発に携わった「LANシート」がグッドデザイン賞金賞を受賞しました</a>	494
12	2007年10月22日	<a href="#">「2007 WSC : ソーラーカー ・オーストラリア縦断 3,000kmレース」レポート</a>	491
13	2009年9月8日	<a href="#">「ソーラーカーレース鈴鹿 2009 DreamCup」に参加しました</a>	482
14	2009年7月1日	<a href="#">「第7回エコカーフェスタ八王子」にソーラーカー“SALESIO”を展示しました</a>	433
15	2009年6月10日	<a href="#">サイエンスチャンネルにプロジェクト実習の学生達出演します</a>	428
16	2009年8月5日	<a href="#">陸上競技部が「2009 高専体育大会」全国大会へ出場決定を果たしました</a>	411
17	2009年5月4日	<a href="#">2009 ワールド エコノ ムーブの参加と受賞報告</a>	391
18	2009年9月9日	<a href="#">陸上競技部の影山さんが「2009 全国高専体育大会」にて大会新記録で優勝しました</a>	389
19	2009年6月4日	<a href="#">八王子「第5回★学生天国★」に参加しました</a>	380
20	2009年4月30日	<a href="#">渡邊 志 先生著 (共著)『ソフトなサイエンスで学ぶ先端科学 -基礎と楽しい応用-』が発刊されました</a>	376

解析ツール

Google Analytics

解析期間

2009年2月1日 (解析導入月) ~2010年03月31日

対象アクセス

学外からのアクセスのみ

解析サイト

サレジオ高専メイン内 『TOPICS』記事全般

集計単位 (年間)

「ページ別セッション数」=ユーザがサイト来訪時に訪れたページ (短時間内に重複して開いたページはカウントしない)

※ 「ユーザ数」は、Web ブラウザの Cookie を利用して「1 PC」=「1 ユーザ」としている

※ 「ページ別セッション数」は、1 ユーザがサイト閲覧中に同じページを複数回開いても 1 カウントとして算出している (各トップページ等、操作上何度も開かれるページのカウンタ数だけが突出することを防止)

※ 「セッション」とは、訪問ユーザのブラウザと特定の WEB サイトのやりとりが継続する期間。

ここでは、ユーザが 30 分間サイトで操作を行わないとセッション終了としている。

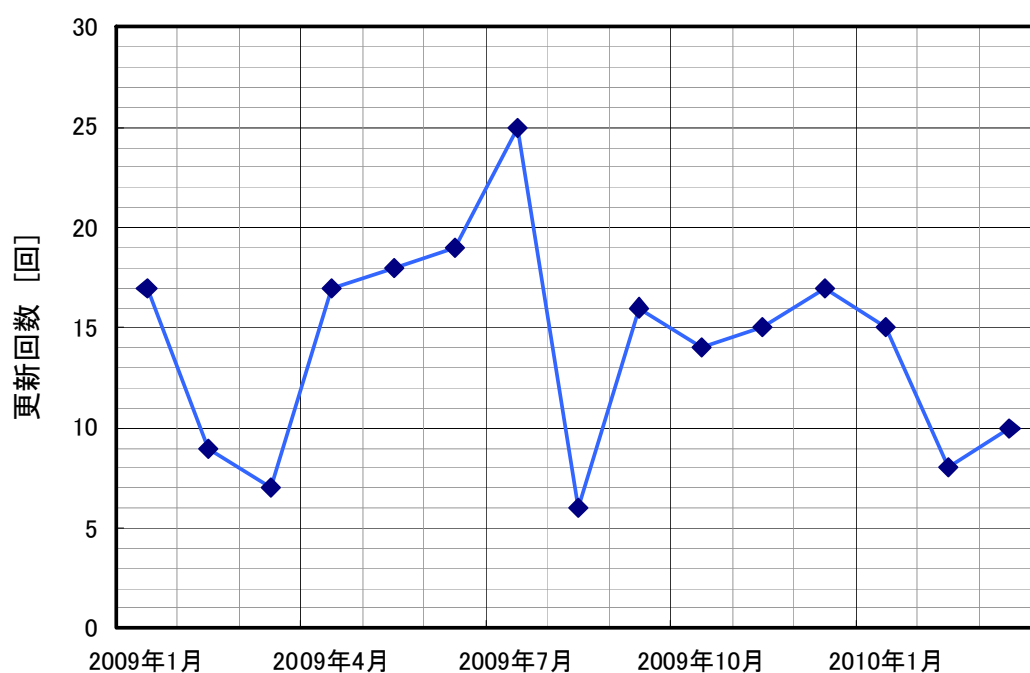
⇒ [【参考リンク】GoogleAnalyticsヘルプ「クリック数、セッション数、ユーザー数、ページビュー数、ユニークセッション数の違いは何ですか。」](#)

(5) メインサイト更新件数

年月	更新数
2009年1月	17
2009年2月	9
2009年3月	7
2009年4月	17
2009年5月	18
2009年6月	19
2009年7月	25
2009年8月	6
2009年9月	16
2009年10月	14
2009年11月	15
2009年12月	17
2010年1月	15
2010年2月	8
2010年3月	10
総計	213

※ 2009年1月～2010年3月の更新件数を「更新履歴」ページを基にカウントした  
[⇒サレジオ高専 - 更新履歴](#)

年間更新件数





## (6) 検索キーワードからのセッション数ランキング

順位	キーワード	セッション数	セッションあたりの閲覧ページ数	平均サイト滞在時間	新規セッションの割合[%]	直帰率[%]
1	サレジオ高専	31,399	7.92	00:04:37	45.26	18.24
2	サレジオ	9,036	6.17	00:03:17	44.01	28.54
3	サレジオ工業高等専門学校	2,924	7.27	00:03:42	68.13	17.20
4	プラネタリウム作り方	2,197	1.23	00:01:06	87.98	84.84
5	育英高専	2,015	7.36	00:03:44	67.15	23.08
6	salesio	1,318	4.71	00:02:50	31.87	34.22
7	プラネタリウム自作	843	1.26	00:01:27	83.16	86.60
8	プラネタリウムの作り方	730	1.34	00:01:42	86.44	81.51
9	育英工業高等専門学校	597	7.72	00:03:52	85.09	20.27
10	高専	521	7.09	00:03:15	64.49	28.41
11	サレジオ高等専門学校	493	9.39	00:05:25	62.27	12.98
12	サレジオ高専	404	9.00	00:04:51	58.66	14.11
13	自作プラネタリウム	382	1.18	00:00:46	86.39	86.91
14	サレジオ工業	366	6.37	00:02:51	68.03	19.95
15	サレジオ工業高専	354	8.56	00:04:37	72.60	11.58
16	八王子産学公	348	1.09	00:00:30	0.29	97.70
17	サレジオ高専偏差値	341	9.09	00:05:17	48.97	27.86
18	キャリア	340	1.06	00:00:07	0.00	96.47
19	サレジオ高専入試倍率	338	10.39	00:07:06	26.92	18.34
20	自作プラネタリウム	335	1.24	00:00:54	82.99	84.48
21	高専ロボコン	317	1.79	00:00:50	61.51	74.13
22	米盛 ih	262	2.28	00:03:07	0.00	66.79
23	2009関東信越地区高専大会	243	2.28	00:01:35	0.00	65.84
24	川崎ロボコン	235	1.55	00:00:21	77.87	80.43
25	プラネタリウム製作	226	1.31	00:01:50	70.80	81.42

解析ツール

Google Analytics

解析期間

2009年2月1日（解析導入月）～2010年03月31日

- ※ 「セッション」とは、訪問ユーザのブラウザと特定のWEBサイトのやりとりが継続する期間。ここでは、ユーザが30分間サイトで操作を行わないとセッション終了としている。
- ※ 「セッションあたりの閲覧ページ数」とは、ユーザがサイトを訪問中に閲覧したページ数の平均。たとえば「サレジオ高専」でサイトに訪れたユーザはサイトを離脱するまで平均7.92ページを閲覧することがわかる。
- ※ 「平均サイト滞在時間」とは、ユーザがサイトに滞在した時間。
- ※ 「新規セッションの割合」とは、初めてサイトを訪問したユーザの割合。この値が大きいと、対象のキーワードが新しいユーザを獲得しやすいことを表す。
- ※ 「直帰率」とは、閲覧開始ページから1ページだけを閲覧して離脱する割合。この値が大きいと、ユーザを引き留めていないことを表す。

## 編集後記

関係各位の多大なサポートの上にようやくセンター報の創刊にこぎつけたことに感謝の言葉もない。

本センターが木戸事務長の発案の下発足して以来六年目を迎える。全国の高専の中でもユニークな情報館と図書館を一体化した施設として既に関係機関からも一定の評価をえているが、残念ながらこれを広報する手段が限られおり、知名度を上げる必要があった。そこでさまざまな学習上の「気づき」を与える場である本センターの特色をより広範に伝え、また活動内容のレベルアップを図る目的でセンター報の発刊に至った。研究教育に内容の基盤を置きつつも、この点国公立高専の情報センター報とやや異なる特色として考えている。2010年度も本センターではPCシステム変更という大きなイベントがあり、これについては第二号以降で紹介していきたい。

編集にあたってはメディア委員スタッフの方々、また学生図書情報委員の方々より終始様々なご支援をいただき、発刊はそれらの賜物であることは言うを待たない。編集子はスタッフ各位の努力もさることながら、全般的な教育支援施設という本センターの性格からそのスタッフには暖かな雰囲気があり、これがひいては利用者に伝わることで独自の魅力となっていると感じている。学内の学生教職員、地域との連携も視野に入れた広報誌の役割を果たすべくまだまだ未熟な編集子であるが精一杯微力を尽くしていきたいと考えている。

総合メディアセンター報 編集長 山館 順

総合メディアセンター報 創刊号

平成 22(2010)年 10 月 1 日 発行

編集発行 サレジオ工業高等専門学校 総合メディアセンター  
〒194-0215 東京都町田市小山ヶ丘 4-6-8  
Tel. 042-775-3020 Fax. 042-775-3021

